

## 【学会レビュー】

## 日本宗教学会第 67 回学術大会

(筑波大学, 2008 年 9 月 13~15 日)

高 山 眞知子

毎年初秋の「敬老の日」の休日を含めた 3 日間に開かれる年次大会である。今回は筑波大学と、筆者にとって近場でもあり、聴衆として全日出席した。この学会の会員の特徴は、大学関係者の他に宗教専門職の方々も多いこと、年齢層が広いこと、最近は女性も増えてきたことである。

1 日目は公開シンポジウム「現代社会における宗教学の役割を問う」が開かれ、橋爪大三郎氏、田中雅一氏、山中弘氏等いわばこの学会のスター達が登壇された。

2 日・3 日目は、同時進行で 14 の部会が開かれ、多種多様なテーマについて個人発表や「パネル」(集合発表)が行われ、非常に盛況であった。

今年の特徴の一つは、「宗教文化士」資格創設をめぐる学会主催者側提供のパネルである。一般に日本人は宗教に関心・無理解と言われているが、他方、世界ではいわゆる「文明の衝突」等が起こっており、このような状況で、どの宗教が善いか悪いかを別としても一体人間にとって宗教現象とはどのような意味を持っているのかについて、少なくとも教養として理解できるようになる必要があるのではないか、という問題意識に立っている。そして、その様な基礎的理解のためのカリキュラムを作り、それを学んだ者に、「宗教文化士」という資格を与えようという案である。心理学の「認定心理士」や社会学の「社会調査士」資格などを念頭に、「宗教学」の存在意義をこの様な形で具現化しようとの意図もある。この関連のパネルの一つは、「情報化時代の宗教文化教育の教材」で、井上順孝氏、塩尻和子氏等が登壇された。

ちなみに、筆者はこの案にいたく共鳴し、我意を得たりと思うところ大である。江戸川大学で「舞踊と宗教の身体論」という講義を担当したことがあり、来年度は「舞踊と宗教の人類学」を開講の予定であったが、これは無断で閉講されてしまった。オバマの就任式は宗教的配慮が行きとどき見事であったが、中国系のヨーヨーマによって奏された曲はシェーカー教徒の賛美舞踊の曲「シンプル・ギフト」である。オバマは宗教文化士なのである！

その他、出席して印象深かった発表の一部を列挙すると、「ザラスシュトラの預言者化」(青木健氏)、「現代イスラム社会における聖典グズ」(立命館・小杉麻李亜氏)、「久米邦武の無宗教が意味するもの——米欧回覧実記を中心に——」(大正大・西田みどり氏)、「パネル・宮田登の民俗学」(林淳他)、「死霊結婚の概念」(東北大・小田島建巳氏)、「原典としての「みかぐらうた」」(天理大・堀内みどり氏)などである。

欠席だが気になったものとしては、「パネル・宗教学的知の臨床性を問う」、また「天璋院篤姫と法華信仰——筑波山本證寺の沿革——」(大正大・長倉信祐氏)などというのもあった(この大会の報告要旨集は後日、学会誌特集として発行される)。

筆者の宗教学の恩師はこの学会の会長を務められたこともある井門富二夫氏(筑波大)であるが、今回はご高齢にもめげず最終日の最終登板で「Beyond について——ステヴンスから現在まで——」を発表された。会場はあたかも弟子たちの同窓会の雰囲気漂い、これの末永く続くことが切望された。